

新潟地域の独特遺産である定期市(六斎市)の現状調査と将来に関する一考察

八千代エンジニアリング 正会員 ○吉田 秀樹

1. はじめに

新潟県の信濃川・阿賀野川流域・日本海沿岸等に定期市(六斎市等:中世がその成立の起源といわれる)が多数存在する。特に水運・海運の港のあった在郷町や湊町に多数存在する。六斎市は近代まで全国に存在したが、現在では新潟県・秋田県・愛知県等一部地域だけで、多数存在するのは新潟県のみであり、一部調査はなされているが¹⁾²⁾、近年六斎市に関する全体的調査は実施されていない。出店者も高齢化し、大型商業施設の進出等のため、現在のうちに記録に残すことが急務である。

このため、本研究では、新潟の独特遺産である定期市について、今回県内の現状等の悉皆調査を実施し、新潟地域における定期市の現状・課題・水運との関係を明らかにし、将来に向けての考察を実施した。

2. 全国における定期市の現状

全国的に見て新潟地域が定期市の集中地域であることを明らかにするために既往の研究¹⁾を元に改めてweb上で定期市について調査した。その結果改めて、新潟県、秋田県、愛知県が六斎市等定期市の多数現存する地域であることがわかった。しかし秋田県については、既往研究の44箇所のうち22箇所しか確認できなかった。現地調査を令和3年8月、秋田県増田町の六斎市に実際に調査したが、出店者の減少が大きな課題ということであった。

3. 新潟地域における定期市現状調査

(1) 調査手法と手順

全国的に最も定期市が集中している新潟地域について定期市の現状調査を実施した。

令和3年7月から9月にかけて調査票による調査を既往調査¹⁾におけるリストから69箇所の定期市について実施した。筆者の所属するNPO新潟みなとクラブ内に設置した実行委員会において以下の手順で実施した。

(①調査票の検討→②みなとクラブ会員による各定期市の調査票連絡先確認及び調査票送信→③調査票回収および集計→④秋田県現地調査を受けた追加調査実施)

表-1 調査票の調査項目

調査票調査項目
質問 2-① 定期市の種類
質問 2-② 開市時間
質問 3 開市場所 (追加質問で場所の選択肢を提示)
質問 4 管理者形態
質問 5 ①登録店数 ②平均出店者数 ③出店者増減
質問 6 販売品目、商品の特徴
質問 7 ①1回あたりの来客数、②来客数増減
質問 8 ①課題、②新たな取り組み

(2) 調査項目

調査票による調査項目は表-1の通りである。特に出店者数と課題、新たな取り組みに注目し作成した。

4. 調査結果とその分析

(1) 調査対象と集計対象

調査対象は全体で69カ所、うち回答のあった市は全体61カ所、そのうち定期市54カ所、さらに六斎市40カ所あることがわかった。これら3通りで集計分析した。調査票調査の詳細は報告書を参照されたい。³⁾

(2) 六斎市調査のまとめ

既往の論文での調査結果、過去の調査結果、今回調査結果により、出店者数の推移の分析、水運との関係の再整理、便利ツールの検討を行った。

○定期市・六斎市数の推移

過去の調査と比較し、廃止もしくは不明の市は、定期市で9カ所、六斎市で7カ所と2割近くが廃止されている状況にあり定期市自体の存続がかなり厳しい状況である。沼垂、沢海、和納など江戸時代からの六斎市が消滅している。佐渡の定期市においても廃止の市もある。小さい集落の市の廃止も見られる。

